

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: [shakaitsushin@nifty.com](mailto:shakaitsushin@nifty.com)

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〇〇―一〇〇―九―五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

くもくく

■巻頭言■

今こそ非武装中立の旗を高く

原野人：2

綱領まんなかに理論、思想の学習

蓑輪 泰臣：3

―新社会党「参议院選挙の総括」について―

◇資料1 新社会党「次期参院選方針」 ……4

◇資料2 『新社会党綱領 21世紀宣言』から ……4

◇資料3 向坂逸郎著『日本革命と社会党』から ……5

◇資料4 レーニン『カール・マルクス』 ……8

◇資料5 『共産党宣言』一八八三年ドイツ語版への序文 ……9

―マルクス主義の核心・唯物史観―

労働組合法の観点から、公正な判決を！

稲村 守：10

―関生・コンプライアンス事件結審 判決は23・3・2―

読者からのおたより ……11

# 旬刊社会通信

NO.1372

二〇二二年十一月一日号

二〇二二年十一月二十五日発行  
(毎月一日・二五日二回発行)

## 今こそ非武装中立の旗を高く掲げよう

民族独立戦争が歴史的に終焉を見た今日では、民衆のための戦争などというものはない。両国の大統領がロシアのためとかウクライナのためとか言っても、ロシアやウクライナの労働者・農民のためではなく、ロシアの独占資本とウクライナ、NATO（米欧軍事同盟）諸国の独占資本のための戦争であること、そのためにいずれの国でももつばら労働者や農民が犠牲になっていることは、なかなか認識されない。

日本でも、憲法を踏みにじって軍備を急膨張させ、敵基地を攻撃する準備をするのは、本当は労働者国民のためではなく、独占資本のためであることがなかなか理解されていない。

国家とは何か、「日本のため」とはどういうことかは、今日の教育やマスコミの下では隠されている。連合会長が独占資本の代表者たちと並んで自民党政権の原発推進のための諮問会議に同席することに象徴されるように、労働運動、階級闘争が沈滞し、正しい国家論を学ぶ機会がない状況では避けられないことであろう。国家とは階級支配の機関であり、独占資本の利潤追求を最優先するための機関であることをマルクスに学ぶことが不可欠である。

『21世紀宣言』では「私たちの目指す社会主義社会」でこう述べている。

「民族間や国家間のいかなる問題も、軍事力の行使や戦争では少しも解決にならず、悲劇を拡大するだけであることがいよいよ実証されています。ところが多国籍化した巨大資本は、権益を守り拡大するために、軍事介入や戦争の体制を強めています。

私たちの目指すのは、憲法第9条を守りぬき、これを実現して安保条約も自衛隊もなくするとともに、この理念を世界に広げ、国際主義を大切にして、政党や労働者組織を含む人々の国際協力・連帯を推進し、いかなる軍事介入も戦争もなくし、一切の問題は話し合いで解決する非武力の社会です。」

社会主義以前の「憲法を生かす連合政府」を目指す『中期的な政策』ではこう宣言する。

「非武装中立の日本の実現」として「憲法第9条を完全実施し、世界にひろげる」を冒頭におき、「永世中立宣言と日米安保・米軍基地の解消」、「非核地帯の創設と核廃絶、大幅軍縮」、「自衛隊の大胆な軍縮から解消へ」を定める。「自衛隊は削減、解消して、災害救助組織、国際協力組織に改変」、「殺人のための装備と訓練を重ねる軍隊ではなく、専ら人命救助のための装備と訓練を重ねて、いつでもどこにでも駆けつけることのできる災害救助隊を創設」とする。

日本独占資本とその自民党政権はロシア・ウクライナ戦争を奇貨とし、憲法を蹂躪

して、戦争憲法を持つNATO諸国並みのGDP2%に倍増し、敵基地も要所も攻撃できるようにと軍備拡大に拍車をかける。軍備増強・軍拡競争によって平和が保たれたことは一度もない。

独占資本とその国家は自国の労働者、農民を守るために装って、彼らを軍隊に組織し殺人機械を持たせ、彼らの命をもって、他国の労働者、農民の命を奪う。

我々は非武装中立を高く掲げて、いかなる戦争にも軍拡にも真向から反対し、万国の労働者との団結を推進し、憲法改悪を許さず安保条約も自衛隊も解消をめざす。

(原 野人)

## 綱領まんなかに理論、思想の学習

### ―新社会党「参議院選挙の総括」について―

私は、2022年大会の場で「ヤドカリ選挙はもうやめよう・ヤドカリはいつまでたってもヤドカリでしかない」旨の発言をしました。しかし、書記長は「3年後はない、今闘わなくて3年後闘うことは現実的ではない」「3年後、私たちは闘えない。情勢が闘うことを許してくれない」と中間集約、最終集約で繰り返し発言し、選挙闘争に暴走しました。

結果、有権者数1億544万人に対して、新社会党の取った票は、1万7466票、無残な惨敗に終わりました。この現実を見て、新社会党として、「3年後闘う態勢が作れた」と自信をもって総括できますか。この票数は何を物語っているのか、新社会党の力量のない、弱体化した現実を露呈した内容であったと、率直に受け止めることが重要だと思います。

綱領の、「改憲をめぐる総力戦に勝つために」でも、2項で「広範な共同戦線の構築へ」で、「情勢や課題により社会民主党や日本共産党など他党との共同行動を進めますが、その基本はあくまでも大衆的運動を自ら組織し、参加し、発展させることに置き、その中で私たちの政策や方針、行動への理解と支持を広げていく立場を取ります」とあります。

まさしく、主体的に取りくむことを明記しています。しかし、今回の選挙はどうでしたか、いくらきれいな言葉を並べても、社民党の政党要件の維持、が最優先された取り組みであり、新社会党の政策や方針・行動への理解や支持を広める運動は全く見えなかったと言えます。

毎回毎回、同じ取り組みの連続では、新社会党の組織は消えてなくなります。あえて、伺いたい、今の新社会党と社民党の相違は何ですか。

参議院選挙の敗北を真摯に受け止めて、一から、新社会党綱領「21世紀宣言」に基づく、社会主義を目指す政党として、組織づくりを、腰を据えて、粘り強く取り組

む、そのための日常活動について具体的に提起することが、今大会の任務だと言えますが、総括文章は、そのことを感じることができない内容であると言えます。

「女・シングルそれでも生きていける社会」のスローガンに、若者の共感が広まった、との文言がありますが、ひとりの年金労働者から言わせていただくなら、新社会党は、それがメインの方針なのと思わざるを得ませんでした。多くの勤労労働者の実情は、非正規労働者・年収200万、年金切り下げ・生活苦、貧困・格差・重労働による過労死・精神疾患・コロナ禍での出向・一時帰休・賃金切り下げ・権利侵害・物価高・このような状況下にある大多数の勤労者に、最初に訴える内容であると判断した本部に疑問を持ったのは、私だけではなかったと思います。

私たち、新社会党は、労働者大衆と切り離れて存在することはできない組織です。新社会党の再生、党強化に近道はありません。地道な学習活動と、労働者との緊密な関わりこそが可能性を切り開く一切の方策の土台であるといえます。

改めて言うまでもありませんが、われわれの党が社会主義革命の政党であり、階級政党である。このことを、その通りであると言い切れるのなら、黨員一人一人が、マルクス・レーニン主義の科学的社会主義思想で武装しなければ、新社会党の再生もないし、社会主義の展望は生まれないことも事実です。

(蓑輪 泰臣)

## ◇資料1 新社会党「次期参院選方針」

### 6、次期参院選方針

①立憲野党共闘の深化をめざし、当面、その一環である「護憲の三極」の「共同名簿方式」実現に引き続き努力する。

②そのために、護憲三極の中軸である社民党に、「社民党・市民共同」の党名変更も含め、より共同の努力・決意を求める。

③次期参院選の候補者・方針の決定は、社民党・緑の党・新社会党との協議の進展等を見極め判断する。

④当面「改憲阻止闘争の共同」、「統一自治体選の相互推薦・共同候補者擁立」、「政策課題の共同研究」、両党各ブロックでの体制・協力体制の強化を追求する。

(注)「4 参院選の結果と課題」の⑬項にはこう述べられています。

⑬社民党の福島党首は、「選挙戦で作られた両党の信頼関係をもっともっと発展させたい」(7月20日社会新報)と述べ、「参院選総括」(9・18全国幹事長会議)では、「これらの共闘や成果を教訓とし、統一自治体選や中間選挙も改憲阻止闘争も次期期政選挙も視野にいれて、定例協議の開催を含め市民共同の取組みを進化させていく」としている。25年参院選にむけて「共同名簿方式」の新たな可能性を示唆しているのではないか。

## ◇資料2 『新社会党綱領 21世紀宣言』から

## 2 私たちのめざす社会主義社会

### 《四つの基本目標》

私たちは、未来を失った資本主義に代わって、次のような人間的で民主的な社会主義社会の実現を長期的な基本目標とします。

- (1) 民主主義をあらゆる分野で発展させ、直接民主主義を大切にします。
- (2) 経済的には、利潤中心主義に代わる、搾取も失業もない人間が主人公の共同システム。
- (3) 社会的には、差別も環境破壊もない、ゆきとどいた教育や生活権が保障される人権と共生の社会。
- (4) 国際的には、戦争も軍備も格差も貧困もない連帯と共生の世界。

資本に搾取されたり首を切られることのない、人間が主人公のシステム

私たちのめざすのは、巨大企業は名実ともに社会全体の共有財産となり、働いた成果が自分達みんなのものとなって、老後を含めた生活と福祉の向上に直結する社会です。それは次のような特徴を持っています。

- ①労働者が社会的企業の主人公になって、資本に従属し支配されることがなく、労働力が商品ではなくなり、失業も搾取もなくなる社会。
- ②よりよい技術で生産性を上げることが、失業や不況の発生ではなく、労働時間の短縮や豊かで安定した生活、福祉の向上となる社会。
- ③社会的企業は名実ともに自分たちの貴重な共同の財産と実感され、労働者が主体的・民主的に管理運営する社会。
- ④戦争や抑圧、その他の人間性無視や環境破壊の労働から解放され、個々人の創意と意欲が発揮され、労働そのものが生きがいとなり喜びとなる社会。
- ⑤新卒者はもとよりすべての青年が夢と希望をもって職に就くことができ、素質を全面的に開花させながら、子どもを生み育てることも、さまざまな活動もこころおきなくできる社会。
- ⑥高齢者にも、障害者にも働ける「人にやさしい職場」をつくる社会。

### ◇資料3 向坂逸郎著『日本革命と社会党』から

**階級闘争** 資本主義社会を衛る政党と、これを打倒して社会主義を実現しようという政党の相違なのである。だから、もしわれわれが社会主義の実現を本当に目的とするならば、階級闘争の政党であると主張せざるを得ない。

この階級対立を維持し、存続させることに全力をあげている資本家階級を闘わなければならぬ。この意味で、社会主義政党は階級政党である。そして、階級闘争と政治的に経済的に遂行する。この階級闘争によって、はじめて、われわれは、階級のない、つまり資本の私有者のいない社会をつくり、国民の間に階級対立のない状態をつくることのできる。資本の私有者を排除しないでは、どんなことをしても、社会主義

社会を実現することはできない。

つまり階級対立を持たない真に統一された国民生活の実現は、資本主義を維持しようとする資本家の生産手段の私有制をなくすほかに方法はない。そして、この資本家階級に対する階級闘争なしには不可能である。階級のない社会は、今日の社会の構造から言って、階級闘争なしには実現されないのである。

階級政党論とは、真に階級対立を国民の間から除くことを使命としている。われわれが階級政党でなければならぬと主張する所以は、階級対立のない社会をつくらうということにあるのである。

**社会主義** 社会主義を実現しない社会党はまったく無意味な存在である。科学的社会主義ではなく、全くごまかしの社会主義である。社会主義が科学になったということとは、階級闘争を発見したということである。社会党は、社会主義社会を実現する労働者階級の先頭に立って、階級闘争を遂行する。だから、なによりもまず労働者階級の政党でなければならぬ。したがってまたわれわれの社会党の組織の主力をなすものは、労働者階級でなければならぬ。

**党運営** 労働組合のどこにわれわれの主要努力が注がれるか、という問題を理論上解決したとしても、党内にこれに応じる態勢がととのっていないかったら、それはただの紙のうえだけの話に終わる。

われわれは、社会党の労働部を、真に全国の組合運動に対して活動の根本的指針を示しうるものにしなければならぬ。

われわれは、全国の組合運動の情報をキャッチするだけでなく、運動の先頭に立って光をかかげる役割を充分に果たしえなければならぬ。

今日のこのような役割を果たしえない主な原因は、党そのものが弱体であることにある。党員が余りに少なく、しかも活動的党員がもつと少ないということになる。

党員、ことに活動的党員を多数に獲得するということは、わが党の当面している最大の問題である。

党は、その中核に活動的分子を多く育てることによって、さらにその周囲に多くの一般党員をつくることが出来る。この目的を達成するためには、党は、まずすぐれたオルグを育てあげなければならない。

党強化の問題は、もしわれわれがすぐれたオルグを党内に多数育てることに成功したなら、半ば解決されるといってよい。

中央と地方のオルグは、いわば党の血液である。血が流れていかないとからだの一部は腐敗する。中枢部が損なわれると人間が半身不随におちいるように、オルグ活動を掌握する者のいない党は、やはりバラバラの無力な活動でしかない。オルグは常に中枢部の指導の下に、全国を駆けめぐって、党の末端まで社会主義革命の精神と日常活動の全国的結合力をつくりあげていく。血の通う、強靱な社会主義政党は、オルグ活

動によってつくりあげられる。

このようにして、全社会党が一人の人間のような機動力を発揮することもできる。

**党の強化** 党の強化は、党書記局全体の強化によるところが大きい。党のオルグや書記はたんなる事務員やサラリーマンであってはならない。彼らすべてが党の革命性を純粋に保持する革命家でなければならない。かれらが現実には党の日常の運営を司っているからである。

党の正式の指導機関の在り方については、考究すべき多くの問題がある。社会党はいわゆる議政党ではない。議会が主要な階級闘争の場であることはいまでもないことであるが、議会の外にある組織された労働者の力を、議会活動にむすびつけることによつてのみ、平和革命は可能になる。

**学習そして理論** 学習はたたかいであることを知らなければならない。

社会党は社会主義革命の政党である。社会主義の研究機関ではない。社会主義的行動をやらぬ社会党はありえない。しかし、ただ無意味に行動するのではない。日常山と積まれている事務のすべてを社会主義実現のために集約しなければならない。日常の事務のなかにこのような意味を発見させるのが理論である。

指導理論のない行動は、無意味盲目的行動でしかない。それは単なる改良主義的、日和見主義的行動となる。

われわれの党の大きな欠陥の一つは理論の軽視である。どんな有能なオルグでも、理論的確信なくしては、労働者大衆を組織し、これを強化することはできない。労働者大衆が「ゆりかごから墓場まで」さらされているのは「支配階級思想」である。権力・教育・宣伝をいつさいの機関をあげてこの思想を注入している。さらに、日本の客観的歴史的条件を無視した社会主義思想も、労働者大衆に注ぎ込まれている。

これらすべての抵抗の中に、正しい社会主義政党的組織を拡大し、強化していくためには、われわれは、たたかひの武器、すなわち正しい理論を身につけなければならない。

社会党は不断に、大規模に学習活動を行わなければならない。学習活動は、党の日常活動のいかなる場面でもおこなわれなければならない。開始されようとしている党の行動の意味を十分に党員や組合大衆に理解させないで、強力な運動を展開することはできない。

**一般的理論の学習** いまわたしがとくにここでわが党の強化のためにおしすすめるべきならばと信ずることは、はじめに述べた意味のより一般的な理論の学習である。この理論の欠如がわが党に、議政党、改良主義、官僚主義などの非難をもたらす事実の発生原因ともなっているからである。

わたしは、第一節でのべたような理論の学習活動を、党員のすべてにおしひろめていくことをすすめたい。いまいちど繰り返すと、マルクス・エンゲルスの世界観、こ

れにもとづく世界および日本の客観的歴史的條件の分析、これを土台にした日本における階級対立の状態、したがってまた社会主義革命の必然性と、この革命の形態を提起する経済的、政治的、社会的な基本的諸関係の理解である。

**マルクスに帰る** 私が時に強調したいことは、いま一度マルクス主義の創始者に帰って考える時にきているのではないか、ということである。

教科書だけで学習が終わってはならない、ことを強調したのである。

学習活動は、いろいろのかたちでおこなわれるべきである。党学校の強化、討論集会などの定期的な学習会から、党員が自由に少人数の同志で行う研究会にいたるまで、つねに党員を学習の網の目にとらえるほどにおこなわれるべきである。

しかも、学習活動にとって重要なことは、これを継続することである。学習活動、ことに小グループの研究会は、はじめ相当の人数があつまってもかならず日がたつにつれて減少する。減少してもかまわないから、つづけることが大事である。二人になってもつづけたがよい。つづけていると、まただんだん増えてくる。要はつづけることである。

**学習活動** 適当な講師がないことがある。しかし、社会主義者は独学でやることを決意した方がよい。おたがいだけではドングリの背くらべつまらんというが、やっているうち、みんなが勉強にはげみがついてきて、おたがい向上する。講師に適当な人さえあれば、いた方がいかにきまっているが、おたがいだけでもやれば、かならずやつただけの効果がある。やらないことと比較したら、その効果は、はかりしれない。学習活動はすぐにもやることである。おたがいグループをつくれればよい。やりはじめたらつづけることが大事である。

党の活動分子はただちに自分のまわりにある党員とともに、学習活動をはじめがよい。講師のいないところでは、講師なしではじめるがよい。成果はある。

ただ、つづけることが大事である。あらゆる困難をこえてつづけるがよい。学習活動の成否はつづけるかどうかにかかっている。その際つねに忘れることができないことは、われわれの政党が社会主義革命の政党であり、階級政党であることである。そしてそのことの理解のために、われわれの座右にあつて、不断の指針となるものは、マルクシストの古典的な著作であり、マルクシストの理論と実践の発展の歴史である。

**理論闘争** 党内の理論闘争がつよくおこなわれなければならない。理論闘争のつよく行われない党は、沈滞し、死滅する。党強化のための集まりを党のすべての場所でおこななければならない。

そのために、党員のあるところいかなる場所でも、学習活動をあらゆる方法で振興しなければならない。それが、党強化のいっさいの方策の土台である。

この小論文は「略伝とマルクス主義の解説」と副書され、1918年に書かれています。革命を推し進めるためのものすごい激務の中での著作です。レーニンは一瞬も読み、考え、書くことをやめなかったのです。

レーニンはマルクスの学説を「マルクス主義とは、マルクスの見解と学説との体系である。マルクスは、人類の三つのもつとも先進的な国に属する十九世紀の三つの主要な思想潮流の継承者であり、天才的な完成者であった。この潮流とは、ドイツの古典哲学、イギリスの古典経済学、および一般にフランスの革命的諸学説と結びついたフランス社会主義である。」と説く、さらにくわしくは『マルクス主義の三つの源泉と三つの構成部分』がおもしろい。本書の構成はこうです。

「序文」でマルクスの略伝を簡単に紹介し、「マルクスの学説」―哲学的唯物論、弁証法、唯物史観、階級闘争、「マルクス経済学説」―価値、剰余価値、「社会主義」、「プロレタリアートの階級闘争」のマルクス主義の根本が一つのくもりもなく解説されています。必読の書ですね。

レーニンはパリ・コミューンから学びロシア革命に結びつけました。私なりにパリ・コミューンを調べてみました。

フランスの「パリコミューン」パリ・コミューン(1871)は、フランス・パリの自治市会(革命自治体)のことであるが、ここでは国防政府のプロイセンとの和平交渉に反対して同時期にフランス各地で蜂起したコミューン(La Commune)のうち、普仏戦争後の1871年3月26日に史上初の「プロレタリアート独裁」による自治政府を宣言した1871年のパリのコミューンである。

このパリ・コミューンは約2か月の間存在していた世界初の労働者自治政府であり、ヴェルサイユ政府軍によって鎮圧されたが、後の社会主義、共産主義の運動に大きな影響を及ぼし、短期間のうちに実行に移された数々の社会民主主義政策は、今日の世界に影響を与えた。なおパリ以外でもマルセイユ(1870年9月5日宣言)、リヨン(1870年9月4日宣言)、サン・テティエンヌ(1871年3月26日宣言)、トゥールーズ、ナルボンヌ(1871年3月30日宣言)、グルノーブル、リモージュなどの、7つの地方都市でも同様のコミューンの結成が宣言された。

#### ◇資料5 マルクス主義の核心・唯物史観

##### 『共産党宣言』一八八三年ドイツ語版への序文

この版の序文には、悲しいことには、私ひとりで署名しなければならない。ヨーロッパやアメリカの全労働者階級が他のだれよりも多くそのおかげをこうむっている人・マルクス―そのマルクスはハイゲートの墓地に眠っている。そしてかれの墓のうえには早くも新草がのび出ている。かれが死んだいまでは、『宣言』の改訂や補足はもはやいっそう問題となりえない。それだけに、ここにもう一度次のことをはっきり確認しておくことはいよいよ必要だと思ふ。

『宣言』をつらぬいている根本思想は次のことである。おのこの歴史的時期の経済的生産およびそれから必然的に生れる社会組織は、その時期の政治的ならびに知的歴史にとって基礎をなす。したがって（太古の土地共有が解消して以来）全歴史は階級闘争の歴史、すなわち、社会的発展のさまざまな段階における搾取される階級と搾取する階級、支配される階級と支配する階級のあいだの闘争の歴史であった。しかしいまやこの闘争は、搾取され圧迫される階級（プロレタリア階級）が、かれらを搾取し圧迫する階級（ブルジョア階級）から自分を解放しうるためには、同時に全社会を永久に搾取、圧迫、および階級闘争から解放しなければならぬという段階にまで達した。―この根本思想はただマルクスだけに属するものである。

私はこのことをすでにしばしば明言した。だがいまこそ、このことを『宣言』自身の序文としても書いておく必要がある。

### 労働組合法の観点から、公正な判決を！

関生・コンプライアンス事件結審 判決は2023.3.2

かななま勝手連・しがの田中徹共同代表とのお別れ会も開催

阪神淡路大震災での手抜き・違法工事による大被害を目の当たりにした連帯ユニオン関西地区生コン支部が、工事現場での法令順守運動を行ったことに、こともあろうに工事を妨害したとして威力業務妨害などの罪に問われたいわゆる「コンプライアンス事件」の公判が10月24日、大津地裁（畑山靖裁判長）であった。

弁護側が「正当な労働組合活動だった」と無罪を主張し、結審した。判決は来年3月2日に言い渡される。

起訴状によると、2017年2月、当時副執行委員長だった湯川委員長は他の「被告」と共謀し、大津市の工事現場で住宅会社の現場責任者らに「ブルーシートがはみ出している」「ガードマンがいない。すぐに車をどけて作業を中断してください」などと言いがかりを付け、工事を中断させて業務を妨害した、などとしている。

9月の論告公判で検察側は湯川委員長に懲役8年、元執行委員ら5人に懲役4年6月、同1年6月を求刑した。

弁護側は最終弁論で、事件の全体像について「建設現場で法令違反を指摘することは、生コンの品質を改善し、価格を適正化し産業全体の労働条件を向上するための重要な組合活動で、憲法や労働組合法で保障された正当な活動」と指摘。検察側の主張は証拠に基づかないと批判した上で、罪は成立しないと訴えた。

湯川執行委員長は最終意見陳述で、「労働組合が自分の生活、職場、産業のことを考えて活動することはだめなのか。労働組合法の観点から判決を出してほしい」と述べた。

公判後、反彈庄京滋実行委員会や反原発運動の仲間などが呼びかけ、8月に逝去されたかなま勝手連・しが田中徹共同代表（原発全廃！びわ湖一周デモ実行委員長）とのお別れ会が天津市内の滋賀県教育会館で開催された。元小児科医の田中さんは社会の不正義を憎み、マイク演説や原稿論文発表を好まず、一にも二にも反原発や労組弾圧抗議での決起集会、なかならず現地デモ行進、大衆抗議行動を最も大切にされた。末期がんの診断が下されても、3年前7か月30回連続の毎週土曜・大津警察署抗議に参加された。そして具体的な気配りを仲間に行き届かせた。一方、パリコミュニケーションなどの本格的理論研究も進められていた。たくさんの老若男女の仲間が運動家のありようを故人から学びあい、関生コンプライアンス事件勝利めざす闘いの強化を誓い合った。

（かなま勝手連・しが 稲村守）

## ◇読者からのおたより◇

**諦めない 災害時の輸送、観光振興に寄与** 根室本線（富良野―新得間）存続を求める意見交換会（JR北海道が廃止・バス転換方針の根室本線（富良野―新得間）は、沿線4市町村が「継続断念」と報道された状況下、当会主催の災害復旧と存続を求める意見交換会を9月22日、新得町保健福祉センターなごみで開催しました。

2016年の台風災害で不通の新得―東鹿越（南富良野町）間の現状に危機感を持ち、「道内の一大幹線」で、災害時の貨物代替輸送路として「必要」「道東めぐりの観光振興に寄与」との認識で一致。沿線市町村と連携すること、3団体で政府・知事などへ要望書の提出など決めました。

座長の北村光明さん（清水町）は「十勝の開拓は明治31年、明治40年に旭川と帯広を繋ぐ線路ができた。北海道開拓の歴史を考える必要がある」と話した。

主催者 平良則代表は、説明会終わり様子見状況、知事さんや国土交通省にも行った。3回集会やってアピール文出した。留萌線は廃止決まったようだが、北海道の鉄道の歴史を踏まえ存続を諦めることなく続ける。JRの社長が変わり綿貫さんになったが、皆さんから色んなアイデアを頂きたいと挨拶し呼びかけた。新得町内や富良野市、上川管内南富良野町、北見市等から約40人が参加、熱い意見が交わされた。『根室本線災害復旧存続を求める会』会報No.18（22年10月抜粋）

**抗議の日 事故で関電再稼働できず 危険な原発廃炉！** 危険なC断層が直下にある美浜3号機運転禁止の仮処分の決定がまだ出ず、原発の危険性が問われている中、また関電が高浜4号機の再稼働すること、10月21日、地元福井の仲間をはじめ大阪・兵庫・京都・滋賀の仲間30名弱が緊急に集まり、高浜町音海展望台から高浜原発正面ゲートまでデモと抗議集会を行った。

関電原発の事故多発。ますます私たち反原発運動が優勢になってきた。ありがたいもない証明だが、この抗議集会後またもや高浜4号機はトラブルで再稼働はできなかった。「加圧器逃し弁出口の温度上昇」で故障になり警報が動作したという。技術的にも倫理的にも原発などコントロールできない。事故の多発とともに、緊張感もなくなり危険性がさらに増す。大事故にならない前に原発は廃炉しかない。（22年10月24日 脱原発市民ウオークinしが近江八幡2021 沢井清）

**近況** 7月の参議院議員選挙のあと、与党の大勝で長期安定政権ではとの声もありましたが、旧統一教会（世界平和統一家庭連合）の問題が表面化し一気に政治状況が変わってきました。自民党による、安倍元首相の強引な国葬も国民の批判もある中で行われました。

岸田政権の支持率は下降の一途をたどっています。今必要なことは、コロナへの対応、暮らしの安心、経済の安定です。私もそうした視点で取り組みを強めて行かなければと思っています。

今年も平和行事に参加しました。

8月6日の広島平和祈念式典へは一般公募で申し込み参加することができました。終了後、広島被爆者援護会の慰霊祭へ参加、午後には広島基町高校美術部・広島舟人高校演劇部の公演に参加し、被爆ピアノコンサートも短時間ですが聴くことができました。

8月7日は若い人たち（こどもの参加もありました）30人で、福山人権資料館での学習と福山空襲遺跡フィールドワークに参加しました。

8月8日は原爆福山戦災死者慰霊式へ「のびる文庫」の仲間と参加。夜は、連合広島福山地域協議会の8・8平和の集いへ参加しました。

ウクライナの大変な状況もあります。核戦争の危機が現実味を持って叫ばれています。自分にできる平和へのとりくみを考え行動することが出来ました。（広島・福山市議 西本章）

**政治** ▽10月3日に臨時国会が始まりました。安部元総理の国葬問題、自民党議員と統一教会とのズブズブの関係等々、岸田政権の支持率は下がってきています。国会召集されてから10日程度経過しましたが、財務大臣がG20財務相・中央銀行総裁会議の為アメリカへ行き、岸田総理も今月末にオーストラリア訪問、来月はASEANやG20、APECの出席を決めているとのこと。当然予算委員会も開催できない状況です。

▽予算委員会は首相と全閣僚が出席しなければ開催できず、どうみても様々な問題から逃げようとしている魂胆が見え見えてはいます。

▽この間北朝鮮の度重なるミサイル発射により、「国民の関心が国葬問題、統一教会問題を忘れてくれる。防衛力強化の議論が出来る」と発言した自民党議員がいるとかいえないとか。

▽「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とのことわざがありますが、今の政権与党は国民を馬鹿にしていると思えません。安心して生活していける社会の実現のためにも、引き続き政治状況に興味を持たなければならぬと感じる今日この頃です。（『あかしユニオン』22年10月 編集後記）

**アスリートは食い物？** 今回の思い出の郵便ポスト（No.196）は、新潟県五泉市内で見つけた丸型郵便ポストです。現在は活躍停止の展示品と思われる。でも、町の景観を意識してか綺麗になっていました。水車も雰囲気盛り上げてくれていました。

この国の行く末が心配です。政治の腐敗、アスリートとはかけ離れたオリンピックピック。

（2022年11月1日 長野県飯綱 山浦隆芳）

**故郷へ** 昨日の引越し業者作業員達は素晴らしく手際よく九時〜十時半に終了。アッパレでした。雨の武蔵野から大洗フェリー場着は正午でした。回りの風景撮影したので添付します。

引越し繰り返し、故郷への移住？には時間がかかりました。十三日夜はビジネスホテル泊。夕食は東京最後の晚餐で少し豪華に。

北の地を 目指して走る 秋の空 思い出あまた 感謝をいただき

お世話になり ありがとうございます。 （二〇二二年十月十四日 兼子 和之・千栄子）